

## インターネットアンケート調査結果について

### 1. 調査の概要

目的	現行計画の成果指標等のうち、男女共同参画等の意識に関するものの現状を把握するため実施。あわせて、国の世論調査等をふまえ、その他の現状も数点追加し、現状の意識を把握する。
調査対象	18歳以上の1,000名で、性別、年齢区分は神戸市の人口構造をふまえた。
調査時期	令和2年3月
実施機関	民間調査会社
回答者数	900名
調査内容	・男女の平等感やワーク・ライフ・バランス、DVに関するもので、現行の成果指標等の現状把握 ・国の世論調査をふまえ、役割分担意識や男性の育児参加、女性の参画拡大、防災分野での男女共同参画についての意識の把握

### 2. 調査結果（概要）

#### （1）社会全体としての男女の平等感について

社会全体では、「平等」が14%、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が67.7%と過半数

以上を占めている。社会の個々の場での平等感では、「学校教育の場」が52.7%と最も高く、「政治の場」が18.7%と最も低かった。いずれの場においても男性より女性の平等感が低かった。

## (2) 「男は仕事、女は家庭」という固定的役割分担意識について

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が31%、「反対」「どちらかといえば反対」を合わせた割合が45.6%であった。属性で比較すると60歳以上の男性で「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が45%を超えており、固定的役割分担意識の高さがうかがえる。

## (3) 「ワーク・ライフ・バランス」をはじめとした男女共同参画に関する言葉についての認知度について

「男女雇用機会均等法」が約77%と最も高く、「ポジティブアクション」が約10%と最も低かった。「ワーク・ライフ・バランス」は、約4割で第4次計画の目標値70%を大きく下回っている。いずれの言葉も男女で認知度の差はほとんど見られなかった。

## (4) ワーク・ライフ・バランスに関する希望と現状について

優先度について希望に近いものとしては、「仕事」と「仕事以外」のいずれも

優先したいが男女ともに約5割であった。一方現実・現状には、男女とも約3割にとどまっており、希望と異なり、どちらかを選ばざるを得ない現実・現状がみられた。

#### (5) 男性が家事他仕事以外に積極的に参加していくために必要なことについて

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「男性自身の抵抗感をなくすこと」「職場における上司や周囲の理解を進めること」の3項目が上位を占めており、これは男女とも同様であった。

#### (6) 女性がもっと増える方が良い職業や役職について

「国会議員・地方議会議員」「官僚（国務大臣）、都道府県・市区町村の首長」「企業の管理職」の3項目が上位を占めており、(1)の「男女の平等感」において「政治の場」と「職場」の平等感が1番目、2番目に低かったことと相関関係になっている。

#### (7) 避難所や防災対策における性別の違いに配慮した取り組みの必要性について

「そう思う」「どちらかというと思う」が男性で65.8%、女性では78.5%となっており、女性の方が取り組みを必要と考えている人が多い。

#### (8) DVに関する言葉の認識について

「DV」については、78.7%が見たり聞いたりしたことがあると回答している一方、「デートDV」は34.4%、「面前DV」は21.7%で、言葉として十分に認識されていない。

#### (9) DV行為の認識について

「平手で打つ」79.4%、「殴るふりをして、おどす」71.3%と、身体に関わる暴力の項目についてはDV行為にあたるとの認識が比較的高かった。また、DV行為にあたるすべての項目で、男性の方が認識が低かった。

#### (10) DVの相談窓口の認識について

DVの相談窓口の認識は、警察が64.7%と高く、次に神戸市配偶者暴力相談支援センターが24.4%となっている。